

# 魚病診断結果

岡野健次・小林智彦・宮崎優太・岩出将英・田中真二

## 目的

県内の養殖魚等の魚病発生状況を把握するとともに、その対策指導を行い、魚病被害の軽減を図ることを目的とする。

## 方法

令和5年4月～令和6年3月に水産研究所、同尾鷲水産研究室および同鈴鹿水産研究室に診断依頼のあった魚介類について、病気の診断を行った。

## 結果

今年度の総診断件数は240件（海産魚237件、淡水魚3件）で、過去10年間の平均（約294件）と比べて少なかった。

魚種、魚病別の診断結果を表1～7に示す。

マダイでは、マダイイリドウイルス病が確認され、昨年度より大幅に増加した（令和4年度7件、令和5年度31件）。細菌病では、エドワジエラ症が最も多かった。また、昨年度に確認されたレンサ球菌症（β型）は、確認されなかった。寄生虫病では、心臓ヘネガヤ症が最も多かった。

ブリでは、ノカルジア症、ミコバクテリア症が確認されたが、昨年度より大幅に減少した（ノカルジア症：令和4年度21件、令和5年度2件）（ミコバクテリア症：令和4年度14件、令和5年度1件）。平成30年度から令和2年度にかけて増加傾向であったレンサ球菌症（αII型）についても、昨年度に続き少なかった。

シマアジでは、レンサ球菌症（αI型、αII型）は昨年度より減少したものの、当県では昨年度に初めて確認された新型のレンサ球菌症（αIII型）は、昨年度に続き多発した。

マハタでは、ウイルス性神経壊死症の診断件数は減少した（令和2年度16件、令和3年度9件、令和4年度7件、令和5年度5件）。

クロマグロでは、レンサ球菌症（αI型）が確認されたが、昨年度より減少した（令和4年度12件、令和5年度6件）。また、これまでと同様、脊椎骨骨折も多く確認された。

ヒラメでは、令和3年度に当県で初認されたアクアレオウイルス感染症は、昨年度に続き確認されなかった。

その他の魚種では、マアジにおいて新型のレンサ球菌症（αIII型）が3件確認された。

主要病原菌の薬剤感受性試験結果を表8に示す。エドワジエラ症原因菌では、ホスホマイシンカルシウムの感受性検査に供したマダイ由来2株とヒラメ由来1株のいずれも感受性が低かった（+または++）。レンサ球菌症（αI型、αII型、αIII型）原因菌では、αIII型で、フロルフエニコールへの耐性菌が確認された。また、αI型、αII型で塩酸リンコマイシンへの耐性菌が確認された。ピブリオ病原菌では、塩酸オキシテトラサイクリン、テトラサイクリン、チアンフェニコール、スルフアモノメトキシシンの耐性菌が確認された。

以上の魚病診断とは別に、マダイで7件の健康診断依頼があった。コイヘルペスウイルス病については、1件の診断依頼があり、陰性であった。また、ヒラメの放流用種苗のクドア症（*Kudoa septempunctata*）検査を2件行い、全て陰性であった。

表1. マダイの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
リンパ性白血病	0													1	1
マダイイリドウイルス病	0			2		9	12	1							24
	1						7								7
エビリオアシス病	0				1										1
滑走細菌症	1							1							1
エドワジエラ症	0							3							3
	1				1		3								4
ピブリオ病	0			1		1									2
心臓ヘネガヤ症	0				1	6	3	1							11
ピバギナ症	0			3	1										4
	1		1												1
ネオベネデニア症	1							1	1						2
住血吸虫症	0			1											1
クビナガ鉤頭虫症	1							3							3
	2								2						2
体表潰瘍	2		1												1
腸閉塞	0							1							1
体表スレ	1							1							1
不明	0							6							6
	1							1							1
計		0	3	6	4	16	41	6	0	0	0	1	0	77	

表2. ブリの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
マダイトウイルス病	0										2	1		3
ピブリオ病	0	1												1
ノカルジア症	1							1						1
	2				1									1
ミコバクテリア症	1								1					1
レンサ球菌症(α I型)	0		1											1
レンサ球菌症(α II型)	0		2											2
レンサ球菌症(α III型)	0			1										1
ヘテラキシン症	0												2	2
	1											1		1
佳血吸虫症	0												2	2
吸虫性旋回病	0				1									1
佳血吸虫	0			1		1		2						4
不明	0			1	1		1							4
	1					1	1							2
	2					1								1
計		0	1	3	5	3	0	4	3	1	1	0	4	25

表3. シマアジの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
マダイトウイルス病	0					6	3							9
	1						2	1						3
	2				1									1
レンサ球菌症(α I型)	1			1										1
レンサ球菌症(α II型)	0			1										1
レンサ球菌症(α III型)	0			3	4	4	1		1					13
	1		3	3	1	1	1							9
	2	1	1	1										3
ノカルジア症	1					2								2
ミコバクテリア症	0			3								1		4
	1								1					1
トリコジナ症	0				1									1
ネオベネデニア症	0			1										1
吸虫性旋回病	0			3	4									7
不明	0			2	1									3
	1	1	2	1	1									5
計		0	2	6	19	17	14	3	1	1	0	1	0	64

表4. マハタ類の診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
ウイルス性神経壊死症	1					1	2	2						5
ミコバクテリア症	4								1					1
ネオベネデニア症	1				1	1								2
	2					1								1
不明	0										1			1
	1					1								1
	4										1			1
計		0	0	0	0	2	5	2	1	0	2	0	0	12

表5. クロマグロの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
レンサ球菌症(α I型)	0							1						1
	1					4								4
	2						1							1
脊椎骨骨折	0							2						2
	1	1	1	3										5
	2		4	3										7
	3			3										3
不明	1								1					1
計		1	5	9	0	5	3	1	0	0	0	0	0	24

表6. ヒラメの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
ウイルス性出血性敗血症	0													1	1
エドワジエラ症	0				1	1									2
	1		1	3											4
	2			1											1
レンサ球菌症(β型)	1							2						2	
アミルウージニウム症	0							2						2	
クリプトピア症	0											1		1	
スクーチカ症	0		3									2		5	
	1	1												1	
計		1	4	4	1	3	2	0	0	0	0	3	1	0	19

表7. その他の魚種の診断結果

(魚種)	病名	年齢	月別診断件数												計
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
(マアジ)	レンサ球菌症(α I型)	0				1									1
		1	1												1
	レンサ球菌症(α III型)	0						1		1					2
		1				1									1
マアジ小計			1	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	5
(ブリヒラ)	ピブリオ病	1					2								2
	ミコバクテリア症	1						1							1
	ベネデニア症	1							1						1
	不明	1							1						1
ブリヒラ小計			0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0	5
(カサゴ)	イクチオボド症	0	1												1
カサゴ小計			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
(マサバ)	脊椎骨骨折	0									1				1
	不明	0										1			1
マサバ小計			0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
(アワビ)	環境障害	0							1						1
	不明	不明							2						2
アワビ小計			0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
(アユ)	不明	0							1						1
アユ小計			0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
(ニジマス)	不明	1									1				1
ニジマス小計			0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
(ウナギ)	不明	1												1	1
ウナギ小計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計			2	0	1	3	7	2	1	2	0	1	0	0	19

表8. 主要病原細菌の薬剤感受性試験結果

エドワジエラ症 原因菌 (マダイ)

薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
塩酸キジテトラサイクリン				1	1
テトラサイクリン				2	2
ホスホマイシンカルシウム		1	1		2
オキシリン酸				1	1
チアンフェニコール				1	1

エドワジエラ症 原因菌 (ヒラメ)

薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
塩酸キジテトラサイクリン				7	7
テトラサイクリン				1	1
ホスホマイシン		1			1

α 溶血性レンサ球菌症 原因菌 (α I)

薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
エリスロマイシン			1	9	10
塩酸キジテトラサイクリン				8	8
テトラサイクリン				2	2
フロルフエニコール		1	1	3	5
チアンフェニコール				1	1
アンピシリン				2	2
オキシリン酸				2	2
塩酸リンコマイシン	2				2

α 溶血性レンサ球菌症 原因菌 (α II)

薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
エリスロマイシン				3	3
塩酸キジテトラサイクリン				1	1
テトラサイクリン				3	3
フロルフエニコール				3	3
塩酸ドキシサイクリン				1	1

α 溶血性レンサ球菌症 原因菌 (α III)

薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
エリスロマイシン			1	26	27
塩酸キジテトラサイクリン				10	10
テトラサイクリン				17	17
フロルフエニコール		9	3	14	26
チアンフェニコール				2	2
塩酸ドキシサイクリン				16	16
オキシリン酸				8	8
塩酸リンコマイシン	1				1
アンピシリン				3	3

ビブリオ病 原因菌

薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
塩酸キジテトラサイクリン	2				2
テトラサイクリン	2			3	5
チアンフェニコール	1			4	5
スルフィソゾールナトリウム				2	2
スルファモノメトキシシ	1				1